景観生態学とGISの結合をめざして

理事長　亀山章

私たちは景観のなかで生活しており、そこで育まれた心が次の時代の景観をつくります。だから、景観はとても大事です。景観は人と自然の長い歴史的関係によってつくられてきた地域のあり様であり、地域そのものを言うこともあります。人と自然の関係を生態学的にとらえる景観生態学は、生物多様性時代を担う重要な学問分野です。

一方、自然についての情報や、人と自然の関係を分析するのにはGISが有効な手法として欠かせません。私たち「地域自然情報ネットワーク」は、景観生態学とGISを用いて地域の自然情報の共有化とその活用をめざして活動しています。生物多様性時代に向けて、多くの方々の協働が求められています。この会への参加をお待ちしています。

役員・顧問名簿

● 理事長
亀山 章　東京農工大学 名誉教授

● 副理事長
井本 郁子　(株)緑生研究所, 慶應義塾大学SFC研究所 上席所員
増澤 直　(株)地域環境計画

● 理事
荒尾 章子　(株)地域環境計画
梶並 純一郎　自営業, (株)環境指標生物 顧問
世古口 竜一　エアロトヨタ(株)
八田 史　自営業
村井 寿夫　武蔵野市文化財保護委員

● 監事
木村了　(株)栄設計 取締役

● 顧問
金子 正美　酪農学園大学 名誉教授
中村 太士　北海道大学 名誉教授

推薦します！

顧問 金子正美

気候変動に伴う生物多様性の危機や野生動物との軋轢が深刻化し、自然との共生が急務です。この複雑な課題の解決には、GISを活用したデータの分析と的確な環境計画の立案に加え、市民科学を通じた多くの方々の協働が今後ますます重要になります。GCNは、景観生態学とGISを活用した明確な解決策の提示にとどまらず、専門人材の育成から市民の意識醸成までを担える組織です。これからの時代にGCNが果たす役割は極めて大きく、ここに推薦いたします。

入会のご案内

本会では、会の趣旨に賛同し、活動に参加・支援してくださる方を募集しております。

● 正会員　入会金：2,000円　年会費：3,000円
会の趣旨に賛同し、活動や運営に積極的に参加していただける方。総会に参加し、研究会・講習会・事業・広報など運営にかかわっていただける方。
（研究会・講習会に会員特典で参加できます）

● サポート会員　入会金：不要　年会費：2,000円
会の趣旨に賛同していただける方。
（研究会・講習会に会員特典で参加できます）

● 賛助会員　入会金：不要　年会費：10,000円（一口）
会の趣旨に賛同し、支援していただける法人または個人。

● 入会方法
① HPからダウンロードした入会申込書に必要事項を記入し、事務局宛に郵送またはメールにて、ご送付ください。
② 入会承認後、年会費等のお支払方法をご連絡いたします。
③ 振り込み確認後に、入会手続き完了のお知らせをお送りします。なお、手続きに2週間程度かかる場合があります。

お問合せ・お申込み先

特定非営利活動法人　地域自然情報ネットワーク 事務局
〒162-0066　東京都新宿区市谷台町3-12
新宿NCTハウス103号
e-mail ： gcn-office@geo-eco.net
tel：03-5357-7393
ＵＲＬ ： http://www.geo-eco.net/

(2026年8月版)

The Geoecological Conservation Network

NPO法人 地域自然情報ネットワーク

NPO法人地域自然情報ネットワーク(GCN)は
地生態学の視点から自然環境の保全を提案します

私たちの生活する地域の自然は、長い歴史のなかで、ゆっくりと時間をかけてはぐくまれてきたかけがえのない自然です。その自然の豊かさと多様性を途絶えさせることなく、次の世代へと伝えてゆくことは、自然環境の調査研究や保護にかかわる人々の共通の思いです。私たちはこのかけがえのない自然の大切さを、伝え守り育ててゆくことを活動の目的としています。

地生態学あるいは景観生態学とGIS(地理情報システム)は、この目的を達成するための基礎をつくる科学であり、また問題解決のための技術として活動のキーワードとなっています。

活動内容

■ 調査・解析・評価にかかわる技術の開発と実践
■ 自然環境情報の整備と公開
■ 研究会の開催、教育プログラムの開発と実践
■ 調査・研究・計画業務の受託あるいはコンサルティング
■ 自然環境の保全活動の支援

- 地域自然情報研究会の開催
- 学生向け自然環境 GIS 講義の実施
- 社会人向け自然環境 GIS 講座の企画・開催
- ジオエコツアーなどの野外自然研究会の実施
- GIS コミュニティフォーラムに出展・話題提供
- ESRI 米国ユーザー会議への参加
- 上サロベツ自然再生協議会への参画
- 阿蘇草原再生協議会への参画
- 日本景観生態学会・「野生生物と社会」学会等での提案・提言
- 自然環境調査、景観調査、生物調査等の企画立案と業務受託
- 街路樹活用に向けた提言
- 生態系（グリーン）インフラの研究・社会実装への参画
- 博物館における展示協力
- 地域の重要な生態系抽出に向けた事業
- 東京都自然史博物館の開設に向けた運動
- 30by30 アライアンスへの参加

GIS講座の企画・開催

自然環境の調査や保全に関する仕事に携わる技術者・研究者を対象に、GIS講座を実施しています。講座は自然環境に関する内容を中心とし、フィールドでの活用や、データの解析などを行っています。

企業や自治体、団体等のグループ向けには、業務などですぐに使いたいといったユーザーの要望にあわせた講座を企画し、実施しています。また、大学や専門学校の学生などのGIS初心者や技術者を目指す方に対しては、自然環境の理解をすすめ、景観はもとより、生態系や生物の保護と保全のためのサイエンスとしてGISを用い、その基礎から応用まで幅広く講義を企画し、実施しています。

博物館での実習

専門学校での実習

各種学会・会議・イベント等への参画

GIS関係では、ESRIジャパンコミュニティフォーラムにNPOとして参加し、活動紹介と広報を行っているほか、サンディエゴで行われるESRIインターナショナルユーザー会議での国際的な交流をすすめています。

学会では、「野生生物と社会」学会、日本景観生態学会等の各種学会で委員会等の活動に参加しています。また、サロベツおよび阿蘇の自然再生協議会に参画し地理的視点、生態学的視点等から提案を行っています。

一方、一般向けのイベントとして、市民を対象とした観察会・学習会に協力し、身近な自然を知ることによる生物とその生息空間、生態系への意識の醸成を目指しています。

ESRIJコミュニティフォーラム

サロベツ自然再生協議会

地域自然情報研究会・セミナーの開催

一般の技術者、研究者、学生を対象に、事例や研究を紹介し、議論する場として、地域自然情報研究会を年に数回開催しています。地生態学や景観生態学に係わる調査や研究、GISに係わる動向・研究成果・新しい技術、各種保全活動の発表、生物多様性に関連することなど、幅広い分野の方から話題を提供していただいています。研究会では活発な意見や質問による新しい発想が生まれる場を目指しており、研究会の後の懇親会を含め、会員・非会員を問わない交流の場としています。

また、地生態学をより多くの方に知っていただくため、座学と現地見学会を組み合わせたセミナーとツアーも企画・実施しています。

地域自然情報研究会

ジオエコツアー

GISによる情報整備と各種調査研究の実施

大学や研究機関、民間企業、公益財団法人、NPO等からの研究プロジェクトや調査事業を受託し、土地利用、景観、生物、文化財など様々な事象に対して、地理情報を活用したアプローチを進めているほか、都市計画、地域計画におけるグリーンインフラの活用の可能性を多面的なアプローチから調査し提案します。

最近では、大規模緑地における樹木調査をデジタルな調査手法で行い、調査の効率化や精度向上を目指しました。 また、地域の重要な生態系を抽出する事業では、専門家の意見とデータの両方の視点を踏まえながら、GISを用いた具体的な場所の抽出を進めました。

展示物の作成

GISを活用した調査

「30by30アライアンス」への参加

2030年までに生物多様性の損失を止め回復軌道に乗せるというネイチャーポジティブが世界的な潮流となる中で、我が国も、2030年までに国土の30%以上を自然環境エリアとして保全するという目標「30by30」を掲げ、環境省により自然共生サイト認定の本格運用がなされるようになりました。GCNもそれに賛同し、「30by30」の実現に向けて、自然環境情報の整備・活用、国や自治体等への提言・提案、民間企業等のOECM認定支援など、多岐にわたり活動を実施しています。

「30by30」の取組に関心をお持ちで、達成に貢献したいとお考えの皆様は、是非、GCNにご相談ください。

水辺・緑地の保護保全への貢献

30by30アライアンスロゴマーク